

「健康診断結果」が届いたけど・・・どうしたらいい？ がん検診を受けて「精密検査」と言われたら・・・



健康診断は受けるだけでは意味がありません。健康診断の結果を確認し、今後の生活に活かしていくことが大事です。

放っておかないで、**じっくり結果を見てみましょう。**



チェック!

1 まず、総合判定のチェック

「異常なし」

今回の検査では、特に問題はありません。

「経過観察」「要観察」

軽度の異常を認めます。今後も健診等で経過を見てください。

「再検査」

再検査は、検査による数値が異常だったときに、それが一時的な変動だったのかどうかをもう一度検査して確認するものです。再検査の結果、同じように異常が見られれば精密検査へ進み、異常がなければ「一時的な変動だった」と見なされます。

「要精密検査」

精密検査は、検査で見つかった異常が病気の有無や具体的にどんな病気によるものなのか、治療が必要なのかどうかを確認するためのより詳しい検査です。検査の内容は状況によって異なります。病気と病状を特定するための検査なので、人間ドックや健康診断の検査とは意味合いが異なります。



注目!

2 「精密検査」はどうやって受けたらいいの？

○特定健診・一般健康診断で精密検査と言われた方は

「保険証」・「健康診断結果票」をお持ちになり、かかりつけ医に受診しご相談ください。

○がん検診で精密検査と言われた方は

精密医療機関一覧表などで専門医療機関に連絡し、「保険証」・「健康情報提供書」をお持ちになり受診してください。

健診を受けても精密検査を受けなかったら**早期治療の機会**を逃してしまいます。健診を無駄にしないためにも精密検査を受診することが重要です。



チャンス!

3 「異常なし」だけど・・・年々検査の数値が悪くなっている

年々異常値に近づいている方、今の生活習慣は危険です。それは生活習慣を変えるチャンス。ずっと健康でいるために生活を振り返り改善しましょう。



基準値	前々回	前回	今回
70～99	75	86	98

がん検診を受けて「精密検査」と言われたら・・・

【がん検診】

がん検診は、一見健康な人に対して、「がんがありそう（異常あり）」、「がんがなさそう（異常なし）」ということ判定し、「ありそう」とされる人を**精密検査**と診断し、救命できる「がん」を発見することを目的としています。

【精密検査】

必要な検査を受けてがんがあるかどうかを確かめます。確認しないと、せっかく検診を受けても**早期発見**にはつながりません。

重要! 「要精密検査」だったら、必ず急いで病院へ行こう

今回は、検診を受けることで早期に発見でき、さらに治療を行うことで死亡率が低下することが科学的に証明されている胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、子宮頸がんの5つのがんの一般的な精密検査についてご紹介します。

〈各がん検診の主な精密検査内容〉

胃がん検診



●胃内視鏡検査

内視鏡を口または鼻から挿入し、食道、胃、十二指腸を直接観察します。粘膜の微細な変化も鮮明に見えることから、凹凸の少ない病変や出血なども確認することができます。検査の準備として鎮痙剤（ちんけいざい：胃の動きを抑える注射）やのどの麻酔が必要です。

大腸がん検診



●全大腸内視鏡検査

肛門から内視鏡を挿入して直腸から盲腸まで全大腸を詳細に調べます。検査は20分程度で終わり、多くの場合大きな苦痛もありません。ポリープ等の病変が見つければ、その一部を採取して悪性が良性かを調べます。また、悪性の場合は悪性度を調べることもあります。

肺がん検診



●胸部CT検査

CTとはコンピュータ断層撮影のことで、体内を輪切り状態にしてX線で撮影します。胸部X線検査よりも小さな陰影を見つけることができます。病変が疑われた部位をさらに詳しく撮影して検査を行います。

乳がん検診



●乳房超音波検査

超音波でより詳しく検査します。乳腺の発達した人や、若年者の検査に適しています。

●乳房MRI検査

病変が疑われた部位を、MRIによって詳しく撮影します。このとき、造影剤を注射したり、検査に時間がかかることがあります。

子宮頸がん検診



●コルポ診

コルポスコープは、子宮頸部の粘膜表面を拡大し、細かい部分を観察できる医療機械です。この機械で観察すると同時に粘膜の組織を採取して、悪性かどうかの検査をします。

●組織診

疑わしい部分から組織を取り、標本をつかって顕微鏡で診断する方法です。痛みはほとんどなく、まれに出血することもあります。まもなく止まります。